

2021年度「経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成」 助成団体選考結果のご報告

概要

募集対象	経済的な理由により学習に困難を抱える子どもたちの意欲を高め、学習に取り組む手助けとなる団体の活動
募集期間	2020年11月20日～2021年1月8日
助成金総額	2,000万円以内
応募数	90件
採択事業数	7件
金額	計 19,935,080円（初年度）
活動期間	2021年4月1日～2024年3月31日（最大3年間）
助成選考委員会	本テーマに関して専門的知見を持つ5名の助成選考委員（当財団理事 1名と外部有識者 4名）で組織する助成選考委員会にて、当財団の助成目的に基づき、厳正な審査を行った。

選考委員長より

本助成は、経済的な理由により学習環境に困難を抱える子どもたちの意欲を高め、子どもたちの学習を支援する取り組みを対象としたものです。

応募件数90件のうち、厳格な審査の上、複数年の計画で成果が見込まれる7団体を採択しました。新型コロナウイルス感染症の影響で周知の心配がありましたが、新たな試みとしてオンライン個別相談会を実施し（22団体参加）、結果として複数年助成では過去最高の応募件数となりました。

応募のあった事業内容は、今年度も事業の広がりや多様性を感じました。各団体が現場の子どもに向き合う中で新たな課題に気づき、活動を広げられた結果と捉えています。その中で3年間の事業プランが明確で実現が見込まれる団体が助成対象となりました。各団体で評価された点は、後の一覧にて述べています。

今回採択に至らなかった申請については、概ね、以下のような傾向が見られました。

- ① 地域の課題把握に具体性がなく、その課題解決の手法や計画が適切なものか判断しかねた。
- ② 事業を試行した経験を欠くなど、実行可能性に疑問が残る
- ③ 複数年で取り組み、事業をステップさせるというよりは、単年度の計画のように見受けられた。
- ④ 解決したい課題と解決方法（実行項目、費用、スケジュール）の一貫性が読み取れなかった。
- ⑤ 複数年の助成後、事業の持続可能性や波及効果の見通しが感じられなかった。

どの申請も、各地域において子どもを支え、課題解決に向けた取り組みと感じられましたが、①～⑤の点については、次回の申請時のご参考にしていただければと思います。

今回の採択団体は、単独ではなく、地域の関係各所や同じ領域の他団体と連携して、ネットワークを構築しながら課題を解決することを目指しています。当財団でも、助成を行うだけでなく、団体同士の交流会の開催や成果の発信などを通じて、情報共有・学びあい・連携が促進するよう努めてまいります。

助成団体及び事業内容

	団体名	事業名	テーマ	初年度助成額	拠点	選考にあたっての評価点
1	特定非営利活動法人 CLACK	経済的に困難を抱える高校生のプログラミング学習支援	① 2拠点目の教室開講のための生徒集めおよびプログラミング体験会 ② 拠点運営の仕組み化と、2拠点目の教室開講	¥2,190,000	大阪府	・課題意識に共感できる。プログラミング教育は、Society5.0時代の人材育成として重要な分野であることを評価。
2	特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち	矯正教育現場等でのアーティストによるワークショップを通じた経済的困難を抱える非行少年等の自立支援活動	① 少年院や少年鑑別所、児童自立支援施設等の矯正教育・自立支援の現場を視察、ヒアリング調査 ② アーティストによるワークショップのプログラム開発 ③ ワークショップのモデル実施および自己評価	¥1,904,500	東京都	・少年鑑別所のハードルは高いと思われるが、更生施設など実現可能なところから実績をつみあげて、成果につながることを期待したい。
3	特定非営利活動法人 在日ブラジル人を支援する会（サビジャ）	在日ブラジル人児童への発達・学習サポート事業	① ブラジル人児童への発達サポート ② ブラジル人児童への学習サポート	¥1,638,000	東京都など	・在日ブラジル児の障がい課題に対応する教育や支援活動はまだ事例が少なく、大変意義がある。活動状況の計測や社会への発信、ネットワーク化に期待したい。
4	認定特定非営利活動法人 地球学校	外国につながる子どもたちの日本語学習を支える教室のオンライン化事業	① 支援者がオンラインで学習支援できるためのスキルアップとともに既存の学習教材の収集と整理を進める。 ② オンライン音読用の「ものがたり」教材（独自のイラスト＆やさしい日本語版2種）を作成する。 ③ 既存のゲーム形式の漢字学習教材を1つWeb公開するとともに誰もが活用できるマニュアルを作成する。	¥3,123,000	神奈川県	・子どもたちが楽しみながら学べるアプローチが評価できる上、実行力も期待できる。 ・同じ課題に取り組む団体同士での横連携にも期待したい。
5	特定非営利活動法人 Next Generation	ひとり親家庭をはじめとした貧困家庭の児童生徒への個別学習支援事業と組織力向上事業	① 学習の機会に恵まれない小・中学生へ支援の輪を広げる ② 継続的に支援が続けられるようファンドレイジングの強化 ③ 学習支援のオンライン化に伴う実践研究	¥3,999,980	群馬県	・地道な活動計画を評価する。3年の助成により発展する可能性が感じられる。団体の弱みを克服できるよう、着実な活動に期待したい。
6	認定特定非営利活動法人 フードバンク北九州 ライフアゲイン	学習支援を充実させ、子ども食堂をプラットフォームとした子どもの貧困の連鎖を断ち切る地域モデル構築事業	① オンライン学習を活用したマンツーマン指導の充実と総合的な学習プログラム開発 ② ボランティアの資質向上を目的とした教育と計画的運営が可能となるための資金調達強化 ③ 地域住民への周知活動強化による、地域との協働実現	¥3,213,600	福岡県	・実践に基づき、団体が不足している点の課題把握が明確であり、事業化の見通しもよい。地域や他団体との連携で行う点も期待したい。
7	一般社団法人 ユガラボ	経済的困難を抱えた子どもたちの安心できる居場所と継続的な学びを多地域で支えるプラットフォーム創出事業	① 抱える困難に応じた学習支援のニーズ調査とカリキュラムの設計 ② 当団体の人的資源の充実および西湘地区の他団体との横断的ネットワーク構築 ③ 持続可能な学習支援体制構築に向けた当団体の財政基盤の強化	¥3,866,000	神奈川県	・居場所で育った高校生がロールモデル的に支援する側になる仕組みや、地域の子ども支援の充実につながる可能性が評価できる。

【団体名】

特定非営利活動法人 CLACK

【URL】

<https://clack.ne.jp/>

【申請事業名】

経済的に困難を抱える高校生のプログラミング学習支援

【メッセージ】

◇団体の紹介

「生まれ育った環境に関係なく子どもが将来に希望を持ち、ワクワクして生きていける社会」をビジョンに掲げ、主に経済的・環境的にしんどさを抱える高校生を対象に、完全無料で、対面でのプログラミング学習支援を行っています。PC、通信費、交通費すべてを提供することによって、「プログラミングを勉強したい。」という気持ちがあれば、勉強できる環境を提供しています。

◇助成を受ける事業

プログラミング学習支援は、半年間のコースです。自分のペースで指定した教材を進めてもらいながら、自分でWebサイト/サービスを手掛けられるようになるまで、講師がより添ってサポートしていきます。具体的には大学生講師が高校生と深くコミュニケーションを取りながら、社会人講師が技術的サポートをして、チームで高校生がプログラミング学習を挫折しないように支援しています。またさまざまな領域で活躍する社会人や大学生を招き、これまでの経験について話してもらうワークショップや交流会のようなキャリア教育を月に2回程度開催しています。プログラミング学習以外のキャリア教育を提供することによって、将来の選択肢を広げ、自分の人生を自分で切り拓いていける力を身につけてほしいという想いで活動しています。

◇ポイントと抱負

大阪の1拠点で事業を実施していますが、困難を抱える高校生に継続的に支援を届けるためには、日本全国で支援をしていく必要があると考えています。そのためには、「チームとして高校生によりよい支援」を届けるための、仕組み化が必要であると考えています。まずは地盤のある大阪で複数拠点化する1年です。CLACKの支援の形を確立し、日本全国に広がる支援の足がかりを作ります。

【団体名】

特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち

【URL】

<https://www.children-art.net/>

【申請事業名】

矯正教育現場等でのアーティストによるワークショップを通じた経済的困難を抱える非行少年等の自立支援活動

【メッセージ】

◇団体の紹介

NPO法人 芸術家と子どもたちは、1999年に発足、2001年からNPO法人として活動を行っています。

私たちが取り組んでいるのは、現代アーティストと、いまの子どもたちが出会う「場づくり」です。多様な価値観・考え方・身体感覚を持つ人々が共生する社会を創出するため、子どもたちとアーティストの出会いを通じて、創造的な学び・遊びの機会をつくりだす活動を行っています。

◇助成を受ける事業

令和元年の矯正統計調査で少年院在院者の非行時の家庭の生活程度は「貧困」が19.5%を占め、経済的な困難を抱える家庭に生まれた子どもたちが、犯罪を起こすリスクが高いことが明らかにされました。私たちは、貧困の連鎖や再犯のリスクを抑えるためには、子どもたちへの施設内教育の充実や、福祉的サポートによるケアが現状以上に必要となっているものと認識。貧困による困難や非行等を経験し傷ついた子どもたちの自己肯定感の回復、他者との信頼関係の構築、コミュニケーション能力の向上等を目的に、矯正教育・自立支援の現場にいる子どもたちを対象としたアーティストによるワークショップを企画し3年間かけて事業を立ち上げたいと思っています。1年目となる今年度は、少年院や少年鑑別所、児童自立支援施設等の現場を視察、ヒアリング調査し、アーティストによるワークショップのプログラム開発を行い、ワークショップのモデル実施および自己評価までを実行する計画です。

◇ポイントと抱負

これまで当団体は、教育分野（小中学校等）や福祉分野（児童養護施設、障害児入所施設等）でアーティストのワークショップを数多く実践してきました。今回、新しいチャレンジとなる少年院等の現場においても、これまで同様、施設職員や関係者から丁寧にヒアリングし、子どもたちの実態をよく把握して、子どもたちの声なき声を聴き、彼らに寄り添いながら実施し、継続的な取り組みにしていきたいと考えています。表現とコミュニケーションのプロであるアーティストの力はきっと有益な結果をもたらすと信じています。

【団体名】

特定非営利活動法人 在日ブラジル人を支援する会（サ
ビジャ）

【URL】

<http://www.nposabja.org/>

【申請事業名】

在日ブラジル人児童への発達・学習サポート事業

【メッセージ】

◇団体の紹介

日本全国に在住するブラジル人の日本社会への適応、日常生活で生じる様々な問題の解決支援を行うことで、在日ブラジル人が安心して日本に暮らせる社会作りと、その子どもたちがその将来や未来への可能性を広げられるようサポートを行うことで、社会に貢献できる人材として成長できる環境作りを目指し、生活面・健康面・教育面から支援活動を実施しています。

◇助成を受ける事業

ブラジル人家庭の多くは、経済の変動に直接的に影響され易く、家計も不安定であり、結果保護者の子どもの教育への関心度が低く、経済的理由から教育への支出も低い傾向がある。子どもが十分な教育を受ける機会が少ないことで、彼らもまた中卒・高卒で派遣労働者となるといった貧困の連鎖が続いている。また、特別なサポートが必要なブラジル人児童へ適切な教育や支援を提供できる体制が現在の日本の教育制度では不十分である。

これらの課題に取り組むために、

- (1) 日本の教育機関や保護者と連携し、ブラジル人児童へポルトガル語の発達サポート
- (2) バイリンガル指導員らによる学習サポート

の2事業を実行する。

第2ステップでは、同じ質の支援を地域差なく全国のブラジル人児童へ提供できるよう、当会以外のブラジル人心理士やNPOとネットワークを形成し、情報・ノウハウの共有に取り組む。

第3ステップでは、行政と連携した制度化を目指す。

◇ポイントと抱負

日本語を母語としない児童が日本社会、日本の教育制度の中で学習し成長するには様々な課題がある。その多くは家庭環境が大きく関わっており、家庭が抱える問題解決にも着目し、サポートを行う。同時に、児童が在籍する学校との連携も必須であり、保護者・学校・当会が多面的に児童への支援に取り組む。

また、ブラジル人のみならず多くの外国人児童が日本の学校在籍している（2019年時点93,133人）。本事業で取り組む課題は、他の言語を母語とする児童らが抱える問題として捉え、本事業がモデルケースとなるようネットワークを通じて在日外国人児童支援に取り組む他のNPO諸団体らに共有する。

【団体名】

特定非営利活動法人 地球学校

【URL】

<http://www.chikyu-gakko.org/>

【申請事業名】

外国につながる子どもたちの日本語学習を支える教室のオンライン化事業

【メッセージ】**◇団体の紹介**

地球学校は横浜で外国人を日本語の面からサポートしているNPOです。「みんなちがって、みんないい。国を越えて、人と人をつなぐ」を合言葉に20年。外国人はもとより日本人にとっても多様性が尊重される多文化共生社会を目指しています。主な事業は、だれでも参加可能な有料の日本語教室、親の都合で来日した外国につながる子どもたちを対象とした無料の地球っ子教室です。

◇助成を受ける事業

1) 外国につながる子ども向けのオンラインで学ぶ初期指導の日本語学習教材作成（公開）
支援者がオンラインで学習支援ができるためのスキルアップとともに既存の学習教材の収集と整理を進める

2) 外国につながる子ども向けのオンラインで音読学習するための「よみもの」教材作成（公開）

オンライン音読用の「ものがたり」教材（独自のイラスト・やさしい日本語版2種）を作成する

3) 外国につながる子ども向けのオンライン学習につながる「漢字」教材作成（公開）

既存のゲーム形式の漢字学習教材を1つWEB公開するとともに誰もが活用できるマニュアルを作成する

◇ポイントと抱負

地球っ子教室では子どもたちの「日本語学習」「教科学習」「居場所」を大切にして活動してきました。今回の事業は現場で必要に迫られ少しずつ取り組んできたことをカタチにするものです。目の前の子どもたちと実際に使いながら、つながりのある他団体とも連携して作ります。

コロナ禍で子どもたちのことを思いながらも急速に進むICT化の流れの中で苦慮している支援者の声を聞いています。まずはオンライン・PC操作に慣れるような、やさしい通信媒体の活用マニュアルを進め、公開するものは著作権上問題のないオンライン教材にします。子どもたちが日本の学校で学ぶ基礎となる「漢字」と「音読」を継続的に学習できる教材と仕組みをつくりたいです。

今回の事業で作成する成果物はすべて公開します。「外国につながる子どもたち」を支援している全国の人に使っていただき、声を聞いて、さらにより良いものにしていきたいです。

【団体名】

特定非営利活動法人 Next Generation

【URL】

<https://npo.n-generation.jp/>

【申請事業名】

ひとり親家庭をはじめとした貧困家庭の児童生徒への個別学習支援事業と組織力向上事業

【メッセージ】

◇団体の紹介

当団体は、2016年11月、群馬県内の高校生6人を理事にNPO法人として発足しました。私たちは、十分な学習の機会に恵まれない子どもたちに対し、学習の機会を提供することで、学力の向上のみならず、子どもたち一人ひとりが持つ将来像の実現に向けた包括的な支援を行っております。また、活動を支えるスタッフの多くは、大学生を中心とした若者であり、スタッフ一人ひとりの実践的な学びの場としても活用することで、これからの群馬県内の社会教育活動の活性化に貢献したいと考えております。

◇助成を受ける事業

まず1つ目は、学習の機会に恵まれない小・中学生に対し、1対1での学習支援を行う取り組みです。子どもたちの学力の向上や将来像の実現に繋げていきたいと考えております。2つ目は、1つ目に掲げた支援が継続的に続けられるよう、ファンドレイジングの強化を図る取り組みです。3つ目は、新型コロナウイルス感染症により変化しつつある社会のカタチに適応するため、実践を通して、新たな支援の在り方を検討して参りたいと考えております。

◇ポイントと抱負

学習支援事業の財源の多くは、行政などの委託や助成金であり、委託や助成金配分が終了してしまうと、子どもたちへ支援をすることが難しくなってしまいます。そのため、寄付や協賛の仕組みを取り入れ、ファンドレイジングの強化を図るとともに、他事業分野での委託や指定管理等を受託し、継続的に法人運営ができるよう努める必要があると考えております。また、当団体のスタッフの多くは大学生であり、4年間という限られた期間で活動を行っております。今までは若さを活かに活動して参りましたが、継続的な法人運営のためには、専任の事務局職員を配置するなど、組織基盤の強化を図らなくてはなりません。さらには、実施した事業の成果が十分なものであるのか、社会的価値のある事業を行っているのかなど、根拠に基づいた事業作りや評価をしていく必要があると考えております。

【団体名】

認定特定非営利活動法人 フードバンク北九州ライフア
ゲイン

【URL】

<https://fbkitaq.net/>

【申請事業名】

学習支援を充実させ、子ども食堂をプラットフォームとした子どもの貧困の連鎖を断ち切る地域モデル構築事業

【メッセージ】

◇団体の紹介

《ビジョン》私たちは『すべての子どもたちが大切』とされる社会の実現をめざしています。それは言い換えれば、一人ひとりの子どもの中に潜んでいる可能性が大切にされ、その可能性を尊敬し、かけがえのない存在として一人ひとりが愛される社会の実現を目指しています。

《ミッション》生まれ育った環境のために、満たされた食事ができない、十分な教育を受けられない、寂しい思いをしている子どもを、北九州市からゼロにする。

上記のビジョン、ミッションの実現を掲げ、環境課題解決のための食品ロスを削減するフードバンク事業と、その食品を活かして子育て世帯や福祉施設、困窮者を支援する福祉課題解決のための食のセーフティネット事業やファミリーサポート事業を行っています。

◇助成を受ける事業

《課題》

経済的困難を抱える子ども達が負の連鎖を断ち切るために「孤立させない環境」を身近に整備することが最重要だと考えている。今回助成いただく事業は、教育格差をなくしていくための学習支援事業と、子ども食堂「尾倉っ子」を核とした地域のプラットフォームづくりである。学習支援を中心に浮き彫りにされた三つの課題である。

課題1. 学習支援を7年前に始めたが、コンセプトが不明瞭で一般の学習塾との差別化ができず、十分な学習プログラムが提供できていない。

課題2. 対象となる中学生との信頼関係を、学習支援を通して築いていくためには、ボランティア教育や育成は不可欠であり、リーダー的存在の雇用も含めて、計画的運営と安定した資金調達が求められている。

課題3. 子どもの貧困の連鎖を断ち切るため、子ども食堂「尾倉っ子」をプラットフォームとして対象世帯を「孤立させない」地域環境を整備しようとしているが、モデル地域の住民に活動への理解が行き届いていないため、地域との協働が不十分である。

《実行項目》

■ 学習支援のコンセプトを明確にし、オンライン学習を活用したマンツーマン指導を充実させて、総合的な学習プログラムを開発する。

- ①マンツーマン指導のスキーム策定
- ②人材の安定確保…大学側や社会人ボランティアの募集窓口と連携
- ③コンセプトを明確に打ち出した学習プログラムを開発

■ ボランティア教育や育成は不可欠であり、リーダー的存在の雇用も含めて、計画的運営と安定した資金調達。

- ①ボランティア教育マニュアルの作成。
- ②当塾のミッションやコンセプトを説明するPR動画を作成し、資金調達を強化する。

■ 地域とのコミュニケーションを深める。

- ①地域住民に3ヶ月に1回ニュースレターを発行する。
- ②地域団体である西本町児童館母親クラブと連携して、地域の協力者を募っていく。そのための説明資料を作り、説明会や活動（子ども食堂やフードパントリー）への参加を促していく。
- ③子どもの育成に関心のある地域住民及び母親クラブとの意見交換会を持つ。

◇ポイントと抱負

当法人が運営している地元の子ども食堂「尾倉っ子ホーム」を地域づくりのプラットホームとして、地域のさまざまな団体（産学官民）が連携して、「子どもの貧困及び負の連鎖を断ち切るためのスキーム」を作り、包括的支援を実現していきたいと考えている。

今回、助成いただくことで、実現に一步一步近づいていけると、勇気を与えられた。そして、これを地域づくりのモデルとして、広く発信していきたいと考えている。

【団体名】

一般社団法人 ユガラボ

【URL】

<http://yuga-lab.org/>

【申請事業名】

経済的困難を抱えた子どもたちの安心できる居場所と継続的な学びを多地域で支えるプラットフォーム創出事業

【メッセージ】

◇団体の紹介

子どもからお年寄りまでの多世代が自由に過ごす「ゆがわらっことつくる多世代の居場所」の運営を中心に、多世代で共に学び対話をする「多世代共創塾」、子どもたちの学びの場「ゆがわらっこ大学」、多世代で共に食事をする「居場食堂」などのプログラムを実施し、「あたたかな斜めの関係」を実現してきました。コロナ禍では、通常の居場所が開所できない中、オンラインでの居場所開設や、2020年10月には子ども宅食便もスタートし、食材提供・学習支援とともに、ソーシャルワーカーさんやファイナンシャルプランナーさんと連携したサポートを実施しています。

◇助成を受ける事業

神奈川県湯河原町を中心とした経済的に困難を抱えた家庭等の子どもたちに対し、安心できる居場所と継続的な学びの場を届けます。

課題意識：

コロナ禍による経済的な打撃は、長期にわたって経済的な困難を抱える家庭および子どもたちに影響を与えると考えられます。経済的な事情で自分の将来を限定してしまうのではなく、自分自身で未来を思い描き、現実にしていくことができるよう教科指導を含めた多様な学びの支援、そして各家庭が孤立しないための包括的なサポート体制の構築を目指します。また、湯河原町がある神奈川県西湘エリアには、子どもの学びの支援を行なっている団体はいくつか存在しますが、各団体間の交流やノウハウ共有の機会が少なく、個別の団体が個別に支援を実施している状況となっています。団体間のネットワークを強化し、西湘エリアでのサポート体制を構築したいと考えています。

解決の方向性：

1. 学習支援を軸として包括的な支援を必要とする家庭を中心にヒアリングとニーズ調査を行い、ソーシャルワーカー、ファイナンシャルプランナーと連携した継続した支援体制をつくります。
2. 西湘エリアの子どもたちの学びを支援している団体との横の交流をつくり、定期的な勉強会や、専門家による研修を共同で受けられるような関係性を構築します。

◇ポイントと抱負

これまでの活動を通して、経済的困難を抱えた子どもたちに新規で直接リーチすることはとても難しいと感じています。だからこそ、これまで地域の中で子どもたちをサポートしてきたソーシャルワーカーさんや学校教育関係者とも連携をしながら、1人1人の子どもたちのニーズに寄り添うサポート体制を構築していきたいと考えています。また、これまで湯河原町の子どもたちを中心に実施してきたノウハウを他地域の団体とも共有し合うことで、神奈川県西湘エリアを中心に、地域の子どもたちを共に育てるサポート体制をつくりたいと考えています。一方的なサポートではなく、子どもたちが心からワクワクしながら未来を描き、創れるような場づくりにも力を注ぎたいです。